書き抜き読書ノート 2540　　2024 年 4 月 18 日

曹洞宗 大本山永平寺 副監院　西田正法氏 特別講演「貪(とん)から貧(ひん)へ～生き方の変換～」第 36 回全国経済同友会セミナー「福井大会」資料 2024 年 4 月 19 日(金)10:40 ～ 11:40

１．仏陀の出家と修行・・四門出遊と出家・苦行(断食)

（１）四苦八苦〈生苦・老苦・病苦・死苦、愛別離苦(あいべつりく)・怨憎会苦(おんぞうえく)・求不得苦(ぐふとつく)・五蘊盛苦(ごうんじょうく)〉の人生。

（２）「苦」と漢訳された古代インドの言葉は「ドウツカ」＝「思い通りにならない」との意。

（３）苦の原因は、自我を中心に「思い通りにしたい」と望む「貪欲(とんよく)」であった。

２．貪欲を否定しその束縛からの解放を目指した苦行と挫折

３．苦行と放棄の菩提樹下での禅定と正覚(しょうがく)(苦からの解脱と安心(あんしん))

> **ただわが身をも心をも**
> **はなちわすれて**
> **仏のいえになげいれて**
> **仏のかたよりおこなはれて**
> **これにしたがいもてゆくとき**
> **ちからをもいれず、**
> **こころをもついやさずして**
> **生死をはなれ、仏となる。**
>
> **道元禅師『正法眼蔵(しょうぼうげんぞう)』〈生死(しょうじ)〉より**

（１）「わが身」＝〈我執(がしゅう)〉先天的に備わっている自己愛。

（２）「わが心」＝〈法執(ほうしゅう)〉後天的に身に付けた経験や知識への執着。

（３）「仏のいえ」＝一切の存在や現象は、縁起・衆縁和合(しゅうえんわごう)に因るが故に、諸行は無常であり、諸法は無我であるという真実相。

※〈四法印(しほういん)〉縁起の理法を核とした仏教の基準となる四つの真理。諸行無常(しょぎょうむじょう)・諸行無我(しょほうむが)・一切皆苦(いっさいかいく)・涅槃寂静(ねはんじゃくじょう)

（４）「仏のかたよりおこなわれて」＝縁起の理法に因って我が身に回り来る一切の縁を、仏のはからいとして捉えてゆくこと。

（５）「これにしたがいもてゆくとき」＝仏のはからいであるならば、一切の縁を自らの思慮と行為に因って善縁にすると心も定めて生きること。

（６）「生死をはなれ、仏となる」＝〈生死〉と言う四苦八苦の思い通りにならない人生から解放され、仏として生きる中に安心を得、安寧な日々を送ること。

４．**貪（とん）（貪り奪う人生）から貧（ひん）(与え尽くす人生)へ**

（１）①「貪」は煩悩の最もたるもの。

②三毒(貪・瞋・痴)の筆頭。

③他との比較に拠ってアイデンティティーを獲得しようとする自己に由来し、限りなく飽くことを無く欲し続ける心。

（２）①柏木哲夫先生の御著書『生と死を支える―ホスピスケア―の実践』〈朝日新聞社刊〉に、臨床医として大勢の患者さんに寄り添いその死を看取った体験と人間観察から

②人から奪う人生を送った人は死を受容する能力が低く、人に与え尽くす人生を送った人は死を受容する能力が高いようです」とのお言葉があります。

５．最後に

（１）**死は人生のゴールです。**

（２）**折角の人生、ゴールの前で、「逝きたくない、逝きたくない」と戦くこと無く、**

（３）**「お蔭様、有り難う良い人生だった」と、旅立ちたいものです。**

＜コメント＞

西田正法氏は、1954 年栃木県足利市「明林寺」に次男として生まれ、駒澤大学仏教学部仏教学科卒業。曹洞宗教化研修所研修課程修了。後、愛媛県新居浜市、瑞應寺専門僧堂で修行された。曹洞宗関東管区教科センター主監、大本山永平寺の伝道部講師、布教部部長などを歴任して、現在は大本山永平寺副監院。この間、曹洞宗特派布教師、曹洞宗総合研究センター講師などの職を務められておられます。

父君の西田正源先生は、足利市立山辺小学校の校長先生しておられ、御指導を頂きました。５、６年生のときに同学年の別のクラスのクラス担任をなさっておられ、時々声を掛けて頂きました。有難かったです。

2024 年 4 月 21 日(日)

林　　明　夫